



ペットと

同行避難が基本

東 日本大震災ではペットと暮らす人が車中泊などを続け、健康を害する問題が各地で発生しました。国は平成25年（2013年）に人間と一緒に安全な場所まで避難させる「同行避難」を原則とする方針を示しましたが、熊本地震や能登半島地震でも同様の問題が起きているのが現状です。

いざというときにペットと安全に避難するため、飼い主は普段からペットとともに備えをしておく必要があります。

有田川町では

当町の避難所運営マニュアルでは、「居住スペースへのペットの持ち込みは身体障害者補助犬を除き原則禁止」とし、避難所の敷地内にペット専用のスペースを設けるようにしています。

ペットの防災グッズ



□ペットフード・水



□キャリーバッグ・ケージ



□リード



□袋



□ペットシート

習慣・しつけが 防災になる

□繁殖制限措置をする

飼い主とはぐれたペットが放浪し、繁殖して数を増やしてしまうことを防ぎます。不妊・去勢手術をしておくことで性的ストレスや無駄吠えが減ったり、感染症を予防したりする効果もあります。

□迷子対策をしておく

首輪や迷子札、犬の場合は鑑札や狂犬病予防注射済票を付けてください。外れてしまうこともあるので、マイクロチップの装着は有効です。迷子になってしまったときのために、写真も用意しておきましょう。

□ワクチン接種をしておく

避難所ではペットもストレスをためたり、免疫が落ちたりします。普段から感染症予防のワクチン接種や、寄生虫の予防・駆除などを行い、ペットの健康管理をしておきましょう。

□ハウストレーニングをする

迅速に避難するためには、キャリーバックにスムーズに入ってもらい必要があります。また避難所ではケージで過ごす時間が長くなり、慣れていないと激しく吠えたり、体調を崩すことがあるため、事前に練習しておきましょう。

□人に慣れさせる

避難所で周囲の人を威嚇し、吠えたり暴れたりすると、クレームにつながります。普段から人に慣れさせておきましょう。

● ペットを飼っている人の避難の心得
① 避難完了後に引き返さない

万が一、避難中にペットとはぐれてしまったり、家に置いてきてしまったとしても、警報などが出てくる最中に引き返すのは危険です。

② 同伴避難ではない

「同行避難」とは、災害発生時に飼い主が飼育しているペットを同行し、避難場所まで安全に避難することをいいます。ペットと一緒に生活を行う「同伴避難」とは違いますので、避難場所では、ペットと飼い主は別の場所で過ごすことになります。

③ ペットと一緒に残るのは危険

危険が迫っているにも関わらず、ペットの避難が難しいからと、自分も避難しないというのは厳禁です。避難を促す周りの人たちが、救助活動にあたる人たちも危険にさらすこととなります。

④ スムーズな避難方法を考える

多頭飼いの場合、家族の誰がどの子を担当するのか、ケージに入れるのかリードを使うのかなど、慌てないために避難の流れを決めておきましょう。